

序 文

本書は職業訓練大学校調査研究部の安江節夫主任研究員の執筆になる。

近年、わが国の公共職業訓練の対象者の年齢が上り、成人、あるいは中高年の人々が殖えて来た。

それと共に随時入校制など、訓練体制の弾力化もすゝみつつあるが、このことは必然的に技能学習の個別化への要請を強める結果になっている。このような個別学習用の教材作成に当ろうとする方々にとって、安江氏の多年の経験の蓄積である本報告書が、すぐれた手引きとして役立つであろうと信じている。

本書が活用されることを祈りたい。

昭和53年3月

調査研究部長

宗 像 元 介

行動分析に基づく 訓練システム設計の仕方

本書は個別学習のためのシステムの作り方として、ハンダづけの学習を例に述べたものである。

個別学習、殊に自学自習の形態では、学習者が学習の場に入ったときに自分でやってみたくなるようなお膳立てと、それによる適切な、フィードバックが得られる場作りが必要であることは均しく認められているところである。

本書は、このような学習の場作りを手順を追って述べたものであるが、特に強調したいことは、学習は現実の作業を踏まえて学ぶのではあるが、必ずしも作業そのものと一致するとは限らないということである。その作業に入るのに必要なレディネスを高める学習が別があり、それは従来の所謂応用に対する基本という概念ではなく、その作業が出来るためには何が出来ればよいかという発想である。作業手順とは異なった学習シーケンスの構想がそこから生れるであろう。

担当者 調査研究部

安江節夫